片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-01
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX 0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎

題字　黒崎敬淙氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

消防団の重要性を考える
嬉しい悲鳴、入団は順番待ち
片貝だけの特異現象

自然が豊かなこの片貝、当然の事ながら火災に際しても、消火栓はもちろん川の水などで事が足りると思いがちである。が、先日の日刊紙に川や用水路では流れで管が浮き、空気が吸水管に入り手間取った事で到着後数分間放水出来ず、その間に大火となり2人が焼死した。迅速な消火活動を望むという記事が載っていた。

小千谷市消防団第8分団一部一班（部長黒崎均）は一之町、山屋から組織されており、団員21名。今までは入団希望者が少なく困っていたが、ここ数年是非入団したいという若者が増え、現在は順番待ちをしているという喜ばしい現状という。

あってはいけない火災だがいつどこで起きるかも知れない火災。いざという時に役立てる組織でありたいと、2年前の大火を教訓に団員の意識が高まって来た。

毎月20日を定例活動日と決め、誰もが操作出来るようにエンジンの始動、ポンプ操作、放水などの訓練を行なったり、火の用心の広報活動に力を注いでいる。又、団員相互の結束、連携を計るため、「春夏秋冬の陣」と題し、春・花見で一杯。夏・消防を語る会をキャンプをしながら、秋・きのこ汁の会、冬・一泊旅行などを行い情報交換や勉強会を行うようになった。「こうした楽しみをプラスアルファした事が人気を呼ぶもとになったのではないか」と同分団の一人は分析する。

コメント

取材をして見て消防という事についてあまり関心がなかった事に初めて気付かされた。いざ火事という時どうするだろうか、水は？ホースは？消火栓すらどこにあるか定かでない、知っていた所で使い方さえ分からない。前述の記事は21日付新潟日報に掲載されたもので、広神村で起きた火災である。初期消火が迅速に行なわれていれば幼い2人の命も失なわずに済んだかも知れないのである。「責任を消防本部に問う」という内容であったが、誰に責任というより以前に、大切なのは命である。そんな事がない様に町の方一人一人にもう少し「火災が起きたらどうすれば良いか」という事を意識してもらいたいと黒崎部長は声を強める。どこに防火水槽や消火栓があるか日頃からきちんと確認しておく。また初期消火は近くにいる人が行なう事が出来れば一番理想的な事です。消火栓は一般住民が消防車が来るまでの間に初期消火が行なえる様設置してあるもので、そのために町内管理という事になっているのだという。講習なども町内から要望さえあれば喜こんで出向いて行くので気軽に声をかけて欲しいとの事。

又、どの地域でも防火水槽が不足しているはず。各町内で話し合いきちんと設置しておく事も大切なのではないかと話していた。

巻では、消防費は消防団の「酒飲みのために使われるだけ」という理由から支払いを拒否する家庭もあったとか？その消防団の実際を私達は余りにも知らなすぎるのではないだろうか。

消防団の年額報酬は、小千谷市・一万六千円片貝町消防後援会・八千円（いづれも役付きはプラスアルファ）その他に火災などで出動した場合は、時数により費用弁償としてわずかばかりのお金が出る事になっている。火災、自然災害、遭難者や行方不明の人探しなど、いつ何時起きるか分からない事態に対し、時には仕事を放り出し、時には睡眠を削られての命がけのボランティアである。そういった分野に無関心族と言われて久しい（失礼!!）若者が名乗りを上げていることは実に喜こばしい事と思う。

せめて訓練の姿を見かけた時は、「ご苦労様」の一言をかけたいものと思う。

主張

再び商工連合の設立を

多くの町民が期待をもって見守っていた、片貝町商工連合会もついにその姿を消すことになった期待が大きかっただけに誠に残念である。周囲の環境がそれほど厳しい状況にあるのだろうか。

隣の小千谷や越路町に大型店がどんどん進出してきて、回りの中小商店を圧迫し片貝にも既に少なからず影響を与えていることも事実で、さりとて座して死をまつ態度で事足れりとしたら少し芸がなさすぎる。もっとも大量仕入や既存の流通機構に捉われない新方式のいわば流通革命のなか、多くの規制によって温存されてきた制度も緩和され今後どのように変化するか予想もできない現状では、何とかしなければならないという単純な精神論や理想論で解決できないことは理解できる。今や全国至る所で多くの産業人が試行錯誤しながら頑張っている姿をマスコミは報じている。大資本に抗しそれを逆手にとって生き抜こうとすることは所詮無理な話としても小店舗には大店舗にはない人情の細やかさや暖かさ、さらに身近という利便性、ロスの省力化等良い面も沢山ある。片貝には「片貝組」のいう若い商工業者を網羅した形の組織があって、活躍していることは衆知のことで、また自らも会報を発行しその存在価値をアッピールしている。一般町民は彼らを中心とした商工業者の結束に期待していたかに見えた。ところが彼等は単なる仲良しグループであって、商工業者としての活動は考えてなかったようだ。

先般発行された「片貝組」の会報によると佐藤邸の利用についても壮大な計画もあり、出資金を募ってやるということも報じられていたが、果たしてそれだけで事足りるのだろうか、いろんな面での恩典や融資制度を活用できる商工会議所制度を利用しての将来の展望はないのだろうか、気にかかることである。先に本紙でも触れたが現在これだという起死回生の必殺業など存在し得ない。

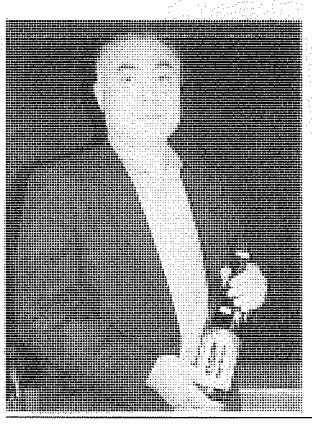
「片貝組」という仲良し組では町内はそれでよいとしても、いざ必要となったときこうした商工業者の組織がなければ、前述の恩典や制度を利用したくてもできない。

世界一の四尺玉を自負し宣伝している片貝人が何故に一般の行動はそうした町内だけに止まって外に向かって羽ばたこうという積極性に欠けるのか。何もせず時代のせいと諦めて商売替えでもするなら別だが、たとえそうなったとしてもまたそこで同じ問題にぶつかることは必定である。

せめてお得意様であり消費者でもある一般町民に、日頃お世話になっている感謝の気持を、何らかの形でお返しするという意識がかっての商工業者にはあった。もっともあまり利用者がないからとなると期待する町民にも問題がある。とりわけ工より商の方に問題があり、工はそれなりにやっていると聞いているが、何れにしても再度若き商工業者の奮起を期待する町民の声は決して少なくないようだ。

佐藤さんの「桂正宗」が品評会で優勝する

片貝公民館において去る4月24日小千谷市酒造杜氏組合主催の第38回自醸清酒品評会が催された。出展数87点。これは毎年魚沼地区及び小千谷市内の杜氏がその年に丹精込めて仕込んだ極上の生酒を持ちより、味、香りを競うもの。今年は県醸造試験場の職員1名と各酒造メーカーの技術者4名による厳選な審査が行なわれた。みごと優勝（小千谷市長賞）の栄に輝いたのは桂正宗、杜氏佐藤篤さん（61才）。長野県の㈲千野酒造場で今冬手塩にかけ育てた逸品。佐藤さんは3年程前にも関東信越国税局の品評会で優勝した経験がある。



「これは運ですね全く。その年の気候、水や米の性質によって今年のプランを立て、時を見て温度やアルコール度、酸性度、アミノ酸の割合いなどを調節しながらじっくり仕込んで行くんですが、毎年が一年生みたいなものですよ」とひかえ目な優勝の感想を語る。

2位以下入賞は次のとおり

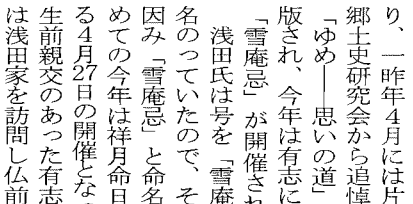
2位（新潟日報社賞）池錦・杜氏吉原正義（高見）・栃木県池嶋酒造㈱、3位（小千谷市長賞）・杜氏金崎誠（五辺）・岐阜県菊川㈱岐阜工場、4位（小千谷市農協賞）東獅子・杜氏和田和司（三仏生）・県元坂酒造㈱、5位（片貝町農協賞）長者盛・杜氏横山敏千谷川2）・新潟県新潟銘醸㈱。なお団体賞（新潟日報社賞）は魚沼支部が受賞。

安部君に敵なし！
相撲大会でまたもや優勝

11日花火の合図と共に第10回わんぱく相撲小千谷場所（㈳小千谷青年会議所主催）が片貝小学校で開催された。市内各小学校から4年～6年までの150名の豆力士が集合し、日頃の練習の成果を競った。学年別に屋内でのトーナメント予選を勝ち抜いた選手が準々決勝からまわしをつけて屋外の土俵で熱戦を繰り広げた。

片貝小学校からも、自分からやってみたいという意欲的な子供達が32名出場した。

6年の部で全国大会でも活躍している安部勇樹君（町裏）が優勝、山口洋介君（一之町五区）が3位となる。両名ともに6月16日に行なわれる「第5回JCわんぱく相撲ブロック大会新潟場所」の出場権を獲得し、5月20日から市民体育館にて小千谷角道会の指導の元、練習を重ねている。4、5年生の入賞はなかった。（写真＝右が安部君、左が山口君）



6月30日(日) 東京片貝会

恒例の東京片貝会（阿部修次会長、一之町出身）が今年も来る6月30日(日)午後1時から、東京都台東区上野1―13―6、東京新潟県人会館で盛大に挙行される。

片貝からも協議会長をはじめ多数が参加の予定。尚毎年のことながら、当日小・中学校へ図書の贈呈がある。

やるねぇ～ 永遠会 ビックなボーリング

5月26日（日）永遠会（会長藤沢貞夫）の「賞金総額114万円をかけた夢のようなボーリング大会」が小千谷ミナミボールで開催された。賞金は当日現金で支払うという前代未聞のこの大会に腕自慢？の会員が40名近く集まりはなやかにオープンとなった。

賞金は200ピン以上1万円、226ピン以上3万円、257ピン以上10万円、パーフェクト100万円であったが残念ながら該当者はなく無事そのお金はまた銀行に戻った。

結果は以下のとおり

1位488点浅田　博（四之町）
2位432点新野淑子（四之町）
3位431点渡辺智子（長岡）

体協人事 新体制決まる
大矢会長スタート

5月9日片貝体育協会理事会において、新会長に大矢孝四郎さん（一之町三区）、副会長に吉原正幸さん（高見）と吉原均さん（二之町）が、また3期6年務めた吉原芳郎さん、友田明石さん、小林光紀さんの三氏は顧問として今後も体協を支えて行く事が決まった。なお、監事に藤塚哲雄さん、宮島幸夫さん（新）の両名と事務局長に吉原隆さんが指名された。

故浅田壮太郎先生を偲ぶ
雪庵忌盛況

五之町の故浅田壮太郎氏は、良寛さまを初め禅の研究者として有名で、大学教授等も教えを請うなど一目置く存在だった。良寛研究の第一人者であっただけに、日常生活にも良寛さまに通じるところがあり、多くの人を引きつけて離さなかった。昭和57年4月27日84歳で他界したが、その後も多くの人達が慕い続けており、一昨年4月には片貝町郷土史研究会から追悼文集「ゆめ――思いの道」が出版され、今年は有志により「雪庵忌」が開催された。

浅田氏は号を「雪庵」と名のっていたので、それに因み「雪庵忌」と命名、初めての今年は祥月命日の去る4月27日の開催となった。生前親交のあった有志14名は浅田家を訪問し仏前に焼香、会場を美好亭に移して学習会と雪庵先生を偲ぶ会（懇親会）を行なった。

学習会は駒谷正雄氏（柏崎市）による「良寛の歌の心」。駒谷氏は古文書に通じ、良寛及び亀田鵬斎の研究家でもあり、雪庵先生と学問上で一番親交があり、自他共に認める雪庵先生の一番弟子。

駒谷氏は「良寛さまには大嫌いなものが3つあった。それは書家の書、料理人の料理、そして歌よみの歌だ。技巧に走る歌を嫌い、素直な自然発生的な万葉集を一番好んだ。我々が良寛さまの歌を朗々と読みあげる時、我々を心のふるさとに誘ってくれる。雪庵先生は良寛顕彰に尽した在野の禅者だった」と語った。

その後雪庵先生を偲ぶ会が行なわれ盛り上がった。

浅田家前にて前列右端が駒谷氏

かたかい春秋

5月に入ってからも異常低温の日が続くなど、不順な天候であったが、ようやく季節に見合った今日此頃になってきたようである。殊に晴れた日は、こんもりと濃くなった木々の緑がキラキラと揺れ、その上を渡って来る風は清々しく気持よく、初夏を感じさせてくれる。▼勉学の身にある者、新入社員等は5月病にならなかっただろうか。壁にぶち当ってもそれを考えさせられた。恐らく数える。即ち誕生してちょうど一年を経た訳である。発行して以来随分励ましや感謝の言葉、そして何よりも「発行日を楽しみに待ってます」の読者の声が届き嬉しく思っている。これからも「片貝町を少しでもよくした役に立てる紙面づくりを心がけたい。宜しく。

は明記されていたが匿名方向で進んではどうか。▼小紙は今号が第12号を

野球シーズンスタート

歴史ある人気の秘密を探る

石上君が第一号ホームラン！

去る4月28日今年も片貝町野球連盟（太刀川忠雄会長）による開幕戦、**会長杯争奪野球大会**が片貝スポーツ広場にて開催された。決勝戦はトナカイチームとロイヤルチームで行なわれ4回までは投手戦を展開。5回裏にトナカイチームが一点を先取したが、6、7回とロイヤルチームの猛反撃にあい、あえなく逆転されロイヤルが優勝杯を手にした。

ロイヤル監督藤塚欣一談＝今大会では思わく通りのレギュラーメンバーが揃った。組合わせもよく普段通りのプレーを出来た事が良かった。毎年春先の成績は良くあとは尻つぼみなんです（笑い）。

また「シーズンの初試合にもかかわらず、オフでの自主トレ及びソフトバレーなどで体力作りをやっていたせいもあってか思ったより選手の動きが良かったと思う」と太刀川会長は語る。

5月19日(日)**議員団杯争奪野球大会**。昭和55年に故本田善治氏始め、関広一、芝与三郎在町議員より優勝杯が寄贈されてから、今年で16回目を数える大会である。

▶議員団杯優勝のトナカイ

▶ホームランの石上君

この日は関広一議員の始球式で試合開始、熱戦が繰り広げられ、トナカイチームが優勝を飾った。決勝戦の勝利投手安達泰昭さんは「先取点、その後セイフティーリードをもらったがベテランチームライオンズ相手のため気を抜けずかなり体はきつかった。打たせて取るピッチングでせめたのが良かった」と語る。

スポーツの町片貝として名を馳せる要因の一つとして歴史も古く多くの町民が楽しんで来たスポーツ野球。『大正12年、故大塚角太郎先生が近隣町村より野球を学んでこられ、放課後子供達に指導された時から幾多の若者が野球に青春をかけ一個のボールを打ち、追い、そして一喜一憂した。ここに片貝町の野球史が始まった』と昭和62年発行の片貝町体育協会史に綴られている。

その後、数多くの若者を魅了してやまない野球の面白さを太刀川会長に聞いてみた。

「筋書きのないスポーツでゲームの展開が非常に面白い。一発逆転という予期しない結果を生むなど最後まで気の抜けないスポーツの一つです」と目を輝かせて語る。なお、今年からフェンス越えのホームランを打った人はその名をバックネットに掲げる事となったが、早速第一号が出た。片貝中学校の石上隼人君3年生だ。議員団杯の第一試合。JA片貝町VS片貝中学校戦で最終回表まで4対4の同点。延長かと思われたがその回裏、2アウト奇跡のさよならホームランで劇的な勝利となった。

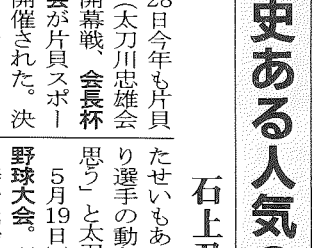
「中学生であれだけのホームランを打てる子は近年にはめずらしい。なかなかの逸材だ」と会長は絶賛。

チーム紹介

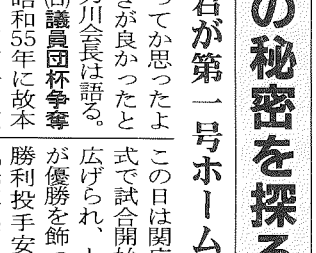
ロイヤル　結成して16年。俺が俺がという個性の強いユニークな集団です。野球以外でも家族サービスで海に行ったり旅行に行ったりしている事がチームの人気の一つかも知れません。

トナカイ　結成24年。同級生チームで学生時代野球をしていた人は誰もいず野球のことは余り知らない人が多かった。野球のことをとおりこしてまじめにばかになる男達の集団。（7月1日号につづく）

会長杯野球大会



議員団杯野球大会



リサイクルかたかい

今年もプレゼント

リサイクルかたかいは、この度毎月町の人達から持ち寄られる資源物の収益金で、保育園、小学校、中学校にプレゼントした。

昨年度の小千谷市からの収益は27万1千円。

毎年同会は前年の収益をもとに『町の人に還元を』と行なっているもので始めてから4年になる。中学校には当初2年間は校舎新築のため何かと作業が多くなると考えられることから作業用一輪車を（計3台）。昨年はみごとに咲いた桜の木の下で中学生は、もちろんの事町の方からもいこいの場として楽しんでもらえるようベンチ3脚を贈り、今年はそれに追加という形でベンチ1脚を（昨年のものより耐久性の強いもの）贈った。「昼休みにそこで弁当を開く生徒がいたり、ブラスバンドの練習に使ったり、町民の方も時々そこで腰を下ろし休まれている人もいてとても重宝していますと」と教頭弁。小学校にはスポーツ用一輪車であったが（合計5台）今年はスポーツタイムなどで子供達が遊べる様、竹馬を15セット贈った。保育園へは若いお母さん方からもリサイクルへの意義を考え関心を持ってもらおうと初めての寄贈。子供達が発育する上で必要不可欠な音楽をより沢山心で、体で楽しんでもらおうとエレクトーン（中古）を贈った。

保育園では子供達も大喜び。6月7日には同会の会員でありエレクトーン講師の安達美登里さんによる「エレクトーン開き」を行なうことになっている。

贈られたエレクトーンを喜ぶ園児達

おめでと〜う　飛翔会

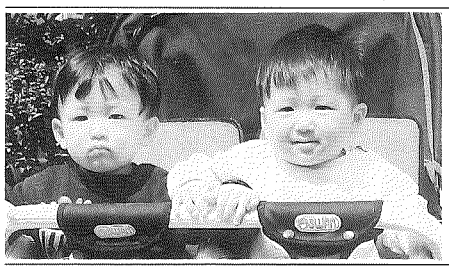
思い出のスポーツセンター前でパチリ

「晴れの日」を祝福するかの様な晴天に恵まれた5月3日恒例の成人式が市民会館大ホールで開催された。

我片貝町の今年の成人は第44回卒業生飛翔会（男33名女40名計73名）。ここ数年当日は支所前に集合し、それぞれの車に便乗し会場に向かう様になった。この日も色鮮やかな振り袖に身を包んだ女性やスーツ姿もパリッと決めこんだ男性が（合計50余名）次々と集まり久し振りの再会に顔を輝やかせていた。

一行は出発に先立ち支所玄関に整列。会長の吉原竜君（高見）の音頭で「今まで育てて下さいましてありがとうございました。お陰様で今日こうして成人式を迎えることが出来ました。これからも宜敷くお願いします」と力強い挨拶。見送る大勢の町民からは「おめでとう。ガンバレヨ！！」の声と共に大きな拍手が湧き大人への仲間入りを祝っていた。市民会館での式終了後は、今は体育館（現スポーツセンター）のみとなってしまった思い出の中学校へ足を運び記念写真を撮った。

ハローベイビー



○小野塚冴香（さえか）ちゃん・崇紘（たかひろ）くん双子（屋敷）

パパ延靖さん、ママ佳子さん（山福）の第二・三子長女二男

平成7年4月26日生

現在の体重9kg、身長74cm（二人同じ）

Q名前の由来

A冴香　人の気持ちがわかるような優しいさわやかな女の子になって欲しい

崇紘　自分の意見をしっかり持ってひろく世の中を見られるような男の子になって欲しい。と思いつけました。

Qお子さんの様子

A良く遊び良く眠る手のかからない良い子。ところがお兄ちゃんが一緒の時は3人ではしゃぎ回ってにぎやかです。

Qどんな子に育って欲しいですか

A世の中に左右されない自分の意志をしっかり持った人間に、そして人を思いやる、人の気持ちがわかるようなやさしい子に育って欲しい。

○丸山　晋（しん）くん（三之町）

パパ祐之さん、ママ里美子さん（大津屋）の第二子長男

平成6年4月8日生

現在の体重11.8kg、身長83.3cm

Q名前の由来

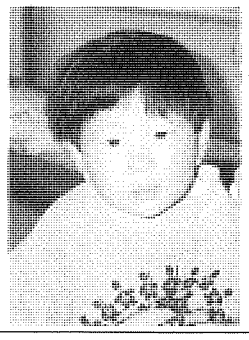
A進む、進み出る、おさえ慎しむという意味から

Qお子さんの様子

A元気が良く、チョロチョロ良く動きまわる。保育園ではボール遊びやすべり台と元気よく遊んでいる様です。

Qどんな子に育って欲しいですか。

A晋とは中国古代の国の一つの名前。その名前の様に一国一城の主になるくらい夢と希望を持つ子になって欲しいと願っています。



私も一言　読者の声

運動会を考えて

気軽に楽しめる運動会に

M男

この度、片貝の一住人として片貝体協関係者に運動会の種目についてお願いしたいことがあり、一言提言させて戴きます。

今年度は、50周年を迎えるという事で今までのご苦労は、言葉では簡単に語り尽くせないものがあると思います。私の町内は、さほど小さくはありませんが、選手依頼では毎年頭を悩まされるものがあると聞いております。

年齢、性別などの制限があり、なかなか適任者がいずお願いに行っても、すんなりといかず何人ものところを頭を下げて廻り、やっと決まるのが現状であり又、大勢の前で恥じをかきたくないという理由からか、何とか言い訳を作り出して当日までに断る。断りさえすれば後は、係の人が何とかしてくれるだろうと言う利己的な人が多いという話も耳にします。毎年の行事で日時を知っているはずなのに、個人の旅行等に日を合わせそれを理由にせいせいしている人も見られます。

運動会をする本来の目的、老いも若きも秋の空のしたで一日レクリエーションを楽しみ、夕食の一時は昼間の話で家庭が明るくなるような行事になるのが理想と考えます。そのためには、練習をしなくてもでき尚、簡単でプレッシャーにならない様な種目であれば、もっと大勢参加し楽しい一日が過ごせるのではとおもいます。

新種目の決定はそう簡単にできるものとは思いませんが、前述の現実をくんで戴き今年の運動会は文字通りの町民大運動会になるよう関係者の皆様にお願いするものであります。

片貝ヒューマンウォッチング

新体協会長の大矢さん教育を語る

「これからの季節はとても楽しみなんですよ、プールが始まるでしょ。そうすると毎日子供達の歓声が聞こえてくるんです」と、心から待ち遠しげに語ってくれたのは、今年から片貝町体育協会会長に就任した大矢孝四郎さん（64才、一之町）。

平成5年大和中学校校長を最後に37年間の教職生活にピリオドを打ってから今年で3年目になる。

現在は、小千谷市体育館前にある小千谷市教育センターに勤務。同施設内に設置されている青少年育成センター所長、登校拒否児童、生徒適応指導教室室長を兼務し多忙な日々を送っている。

「今、センターで一番心を注いでいる事は、教育相談です。相談内容は登校拒否に関わる問題が多く、その対応策を真剣に考える日が続きます。『相談者の納得できる相談』が求められますので、相談員の資質を高めなければなりません。不登校の子を持つ親の動揺、あせり、苦悩する子供の気持ちに寄り添った相談を目指したいと考えています。そんな努力の結果一人でも二人でも、自立して行く姿を見るのは大変うれしい事ですね」と目を細める。

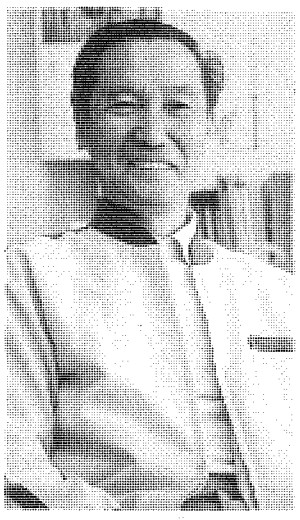
出身は長岡市大積高鳥町。昭和21年13才の時、子供に恵まれなかった叔父夫婦の養子として片貝に住む様になってから50年が過ぎた。

「その頃旧制中学校でバスケットと出会い、以来私の人生はバスケット人生でしたね。沢山の人と出会い多くの事を教えられました。」

初めて導入された「教育採用試験」を経て初赴任は、新潟市立東新潟中学校。「教育は愛だ。子供を知り、鍛えよ」という先輩の歓迎メッセージを宝として教員生活を送って来た。

近年は中学校でも反社会的な行動をとる子供達が増え胸を痛める事も多かった。

「そういう子はやはり何かの犠牲者だと思うのです。



話しを良く聞いてあげる必要があるんですよ」という。

ある学校で校内一暴れてから、ようやく少しずつ分かる様になって来た所です。又今年からは体協会長という事で大役ではありますが、お役に立てる部分で精一杯頑張るつもりでおります」と熱く語る。

家族は奥さんとこの春から同居し始めた娘さん夫婦にお孫さん（3才）の5人暮らし。お孫さんは目の中に入れても痛くないといったかわいがりようで、よきおじいちゃんぶりを発揮している。

現在娘さんは片貝小学校に勤務している。花や野菜を作るのが大好きで裏の畑でインゲン、キュウリ、ナス、枝豆など様々なものを育てて楽しんでいる。他に月に一回は長岡まで行き仲間と共に囲碁を楽しんでいる。